

### はじめに

国会では衆議院が解散され、我が国にとって今後の大きな方向性を決める選挙が行われます。

この中で、TPPを始めとした経済対策やエネルギー政策の在り方、社会保障改革など市にも大きな影響のある争点が予想されます。

市のかじ取りを考えると、政局を見極め、あらゆる可能性を考慮した慎重な動きが求められていると認識しています。国政の影響を最小限にとどめ、市民本位の市政を行っていく必要があると考えます。

### 国際交流事業

11月1日から11月5日まで



ホストファミリーとの対面式にて

韓国密陽市の高校生8名を招き、邑久高等学校で交流事業を実施しました。

授業や部活動の体験交流、ホームステイでの生活体験を行い、11月4日に開催された「瀬戸内牛窓国際交流フェスタ2012」の朝鮮通信使行列へホストファミリーと一緒に参加してもらいました。

今後、平成25年度に開催予定の「第20回 朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会 瀬戸

た錦海塩田跡地活用基本計画提案競技の審査手続きを経て、7者の事業者により構成される「瀬戸内 Kirei 未来創り連合体」を委託先候補者かつ事業主体予定者として決定しました。基本的な約束事項を確認する基本協定と錦海塩田跡地活用基本計画策定業務の委託契約を締結しました。引き続き連合体と緊密に連携を図り、錦海塩田跡地活用検討委員会による基本構想の将来像を反映する基本計画の策定に向けて取り組んでいきます。



オリーブ園から望む錦海塩田跡地

### 企業団地の整備

安定的な税収の確保が可能

となる優良企業の誘致を積極的に進める必要があると考え、本年度から体制を充実して企業誘致に全力で取り組んでいます。

長船町宮下地区の企業団地の整備については、現在、約4畝の土地についての県の開発許可が下り、用地買収を進めています。用地買収が完了し次第、造成工事に着手し、平成25年5月末には造成工事を完了したいと考えています。

また、邑久町豆田地区については、約5畝の企業団地を計画していますが、現在、アクセス道路および造成工事の測量設計作業がほぼ完了し、先般、地元関係者へ事業内容についての説明会を開催し、協力をお願いしています。今後は、用地測量や物件調査ができ次第、用地交渉を進めていきたいと考えています。

### ジョブスポットの利用状況

平成24年3月に就職・生活支援を行う場所として市役所本庁1階に開設したジョブ

内大会」に向けて、実行委員会を立ち上げ、準備を行っていきます。

### 市民公募債

クリーンセンターかもめ改築工事の財源の一部とするため、住民参加型市民公募債「瀬戸内市民債」の発行を予定しています。

これは、財源の確保と市民の市財政運営への関心を高め



クリーンセンターかもめ



ジョブスポットせとうちでの面談

スポットせとうちの利用状況は、開設から10月末までの延べ来所者は984人で、262件の事業所紹介を行い、66人が就労しています。

なお、生活保護受給中の人でジョブスポットを利用し就労したことにより、生活保護の要件から外れた人は3世帯5人、生活保護費が減額となったのは3世帯です。

また、障害者の人は2人、子育て両立支援の人は7人、母子家庭の人は1人が就労しました。

9月からは、ゆめトピア長船と牛窓支所に月1回出張相談に出向き、市民の皆さんの利便性の向上を図っています。

ることや公募債での償還期間短縮による償還利子の圧縮、市民への利子の還元を目的として、本年度試行的に実施するもので、2億円の発行を予定しています。

### 錦海塩田跡地活用の推進

錦海塩田跡地内の覆土については、本年度末で約70%の達成率となり、平成25年度は国土交通省の事業で大量の土の搬入が見込めることから上半期には覆土の完了ができる見込みです。

また、県から適正廃止の基準として新たに指導があった「発生ガス」の調査については、現在まで2回実施し「特に異常なし」との調査結果を得ています。

錦海塩田跡地活用については、7月18日に公募を開始し

### 上水道相互応援参集・受入訓練

11月13、14日に平成24年度日本水道協会岡山県支部相互応援参集・受入訓練が瀬戸内市と備前市を被災都市として、ゆめトピア長船を主会場に開催されました。

訓練は、大雨による土砂崩れにより配水池からの送水管が折損し、両市で約7、000世帯が断水したとの想定で、給水訓練、宿泊訓練などが実施され、瀬戸内市では訓練受入先として応援受入訓練を行いました。

各市町などとの連携を図ることができた有意義な訓練と

### 用語の解説・備考

TPP 環太平洋連携協定。加盟国の間で取引される品目の関税を段階的に撤廃する経済的枠組み。

### 密陽市

大韓民国慶尚南道の東部にあり人口約11万人の市。江戸時代、朝鮮王国から江戸幕府将軍に向けて送られた朝鮮通信使の礎を築いた松雲大師の生誕地。

牛窓町牛窓がかつて朝鮮通信使の寄港地だったことから友好交流が続き、平成17年に瀬戸内市と友好交流協定を締結した。

### 朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会

朝鮮通信使ゆかりの瀬戸内市ほか14市町、唐子踊保存会など各種団体や個人が構成する朝鮮通信使縁地連絡協議会が中心となって開

### 催する交流会。

平成23年度は長崎県対馬市で、平成24年度は大韓民国釜山広域市で行われた。

### クリーンセンターかもめ

牛窓町牛窓にある瀬戸内市内唯一のごみ焼却施設。平成25年4月から現在岡山市に焼却を委託している長船地域のごみを含めた瀬戸内市内のごみを処理するため、設備が長時間の焼却に耐えられるようにする改造工事を行っている。

### 発生ガスの調査

錦海塩田跡地とともに市が引き継いだ約80畝の産業廃棄物最終処分場（事業は平成20年に終了）から標本のガスを採取し、メタン、硫化水素などの濃度を測定した。

### 出張相談

求職者を対象とした相談会。ゆめトピア長船と牛窓支所で毎月1回実施している。相談料は無料。

詳細は、本紙20、21ページのくらしの情報を参照。



上水道相互応援参集・受入訓練

なりました。今後もより一層、相互応援体制の強化に努めていきます。

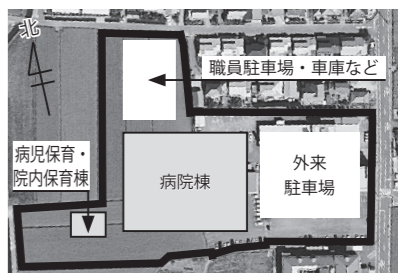
### 病院建設・地方独立行政法人化

平成23年度の決算では赤字でしたが、医師の増員などもあり経営状況は回復の兆しが見え始めています。

入院患者数は徐々に増加しています。また、外来も新しく脳神経外科が加わったことにより一日平均約10人から12人程度増加しています。

地方独立行政法人化については、現段階では、病院の体力が十分とは言えない状況であり、十分な経営能力、財務体質などが確保できるようなった後での移行を考えています。

新病院建設については、基本設計が完成しています。配置は、現在の車庫周辺と水田部分に新病院を建設し、その西側に病児保育・院内保育棟を配置し、現病院周辺を外来駐車場、車庫棟北側を職員駐車場としています。



新病院の建設予定地

病院棟は、1階に診療機能のほぼ全てを配置し、2階の全てを入院病棟とし、北側に急性期医療を担う一般病棟40床、南西側に回復期リハビリテーション病棟30床、南東側に療養病棟40床を配置しています。3階には、北側にリハビリテーション、職員食堂および休憩室、またエネルギー関連機械室を配置し、南側にリハビリテーションで利用可能な屋上庭園を設け、有効活用を図る計画です。実施設計に着手しており、本年度中の完成を目指しています。

中に着手する計画です。  
**消防団組織の変更**  
消防団の活性化については、平成23年10月に瀬戸内市消防団活性化検討委員会を立ち上げ、分団の再編成を要に検討していましたが、11月8日に分団再編の検討結果が出されたところです。  
内容は、現在の16分団を8分団に統合するもので、旧牛窓町は現5分団を牛窓、鹿忍、長浜の3分団に、旧邑久町は現8分団を東と西の2分団に、旧長船町は現行のままの3分団となります。  
この新体制での活動は、平成25年1月1日から開始していく予定にしています。  
今後は瀬戸内市消防団として旧町の枠を取り除いて火災現場に近い分団・部が第一出动となり効果的な消防活動が期待できます。

### 交通事故防止

平成23年の小・中学生の交通危険度ランキングで瀬戸内市がワーストとなったことを大変重く受け止めています。現在、平成23年の同時期と比べ、事故件数は半減しています。

しかし、登下校中における中学生の自転車事故は増加しており、予断を許さない事態であると認識しています。

今後も関係機関や保護者、地域の皆さんの協力を得ながら、子どもを交通事故から守るための取り組みを一層強化していきます。



見通しの悪い交差点は事故が起こりやすい

### 地方独立行政法人

地方自治体が直接実施する必要のないものうち、民間の主体に委ねた場合、実施されないおそれがある事業などを効率的に行わせるために地方自治体が出資し設立する法人。現在の公設公営での運営に比べると、組織、職員定数、予算などについて制約が緩やかであるため、自主的かつ弾力的な経営が期待できる。

### 現在の16分団

旧牛窓町は、牛窓、牛窓東、鹿忍、鹿忍西、長浜の5分団。旧邑久町は、邑久、福田、今城、豊原、本庄、笠加、玉津、裳掛の8分団。旧長船町は、美和、国府、行幸の3分団。

### 小・中学生の交通危険度ランキング

岡山県警察本部が取りまとめた、小中学生1,000人当たりの交通事故の発生件数などを県内の市町村別に比較したものの。瀬戸内市は小・中学生の合計で、関係した事故と第1当事者の事故についての指標がワースト(最も危険)であった。

# 瀬戸内市の底力を掘りおこす地域おこし協力隊

瀬戸内市をもっと元気に！ 都市から来た3人が、ただいま奮闘中です。その名も「地域おこし協力隊」。文字通り、瀬戸内市の魅力・底力を掘りおこすことが期待されています。市が、3人に協力隊員を委嘱したのは平成24年7月、9月、10月。まずは、「瀬戸内市のことを広く深く知ろう」と奔走する毎日。このページでは、「地域おこし協力隊」事業と3人の今後の意気込みなどを紹介します。

## I 地域おこし協力隊とは

「地域おこし協力隊」は、人口減少や高齢化の著しい地方において、3大都市圏をはじめ都市地域の人材を地方自治体が受け入れ、地域力の維持・強化を図る総務省の事業です。

瀬戸内市においても市民団体の支援や情報発信、相談活動、観光支援活動などに従事してもらったため、平成24年4月に公募を行い、3名を採用しました。3人は瀬戸内市地域おこし協力隊(非常勤の特別職)として、地

域の課題解決を支援する活動を行っていきます。同時に、地域おこし協力隊としての活動期間が終了した後も、地域に根差すための基盤を築いていきます。

## II 職歴と今後の意気込みを教えてください

菊地 Web制作会社を設立し、主にITコンサルティング業などの仕事をしてきました。ITにとらわれず、さまざまな視点から瀬戸内市の魅力を市内外に発信していきたいと考えています。

## III 市民の皆さんに一言

浅井 民間企業で、ブランド管理、市場調査、販売促進、イベントの企画などの仕事をしてきました。豊かさの価値を実体験をもって再考し、多くの人と共有することで、情報発信や観光支援活動の活性化を図っていきたくと考えています。  
三木 空間のデザインや包装などの販売促進用品製作、デザイン業務全般に関するコンサルティングに携わってきました。瀬戸内市発ブランドの構築、定着や人と人を繋ぐより良い空間の創出などの支援を行っていきたくと考えています。

3人 地域おこし協力隊としての活動期間は最長でも3年という短期間ですが、隊員と皆さん双方にとって明るい将来像を描くことができればと思います。どうぞよろしく願います。

■問い合わせ先  
まちづくり推進課  
☎0869・22・1031



みきひろのり 岐阜県から

昭和51年岐阜県中津川生まれ。岐阜育ち。日本各地で経験を積み、JICAの青年海外協力隊としてフィリピンへ。帰国後、瀬戸内市に移住。



あさいかつとし 東京都から

昭和49年神奈川県横浜市生まれ。横浜育ち。就職を期に東京都世田谷区へ。趣味は音楽鑑賞、バスケットボール。一児の父。



きくちともひこ 千葉県から

昭和46年岩手県前沢町(現奥州市)生まれ。幼少時は東京、北米、学生時代は横浜などの各地で過ごす。印刷系、IT系の仕事を経て、地域おこし協力隊に。料理が好き。